

第170回「地域の会」定例会資料〔前回定例会以降の動き〕

【不適合関係】

- 7月5日 第二企業センターの倉庫内（非管理区域）における病人の発生について
（公表区分：Ⅲ） [P. 3]
- 7月5日 7号機タービン建屋（非管理区域）電解鉄イオン供給装置からの海水の
漏えいについて（公表区分：Ⅲ） [P. 4]
- 7月12日 2号機原子炉建屋（管理区域）防火壁貫通部の防火処置未実施について
（公表区分：Ⅲ） [P. 7]
- 7月13日 発電所構内（屋外）のボーリング作業におけるけが人の発生について
（公表区分：Ⅲ） [P. 12]
- 7月21日 発電所構内（屋外）の車両検査場におけるけが人の発生について
（公表区分：Ⅲ） [P. 13]

【発電所に係る情報】

- 7月13日 7号機タービン建屋（非管理区域）電解鉄イオン供給装置からの海水の
漏えいの対応状況について [P. 14]
- 7月21日 柏崎刈羽原子力発電所における防火壁貫通部に係る点検計画について
 [P. 16]
- 7月27日 柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の取り組み状況について [P. 17]
- 7月27日 6、7号機の新規制基準への適合性審査の状況について [P. 21]

【その他】

- 7月28日 2017年度第1四半期決算について [P. 24]

【福島の前進状況に関する主な情報】

- 7月27日 福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ前進状況
（概要版） [別紙]

【柏崎刈羽原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合の開催状況】

- ・ 7月 6日 原子力規制委員会 第484回審査会合
新規制基準適合性に係る審査書類の信頼性向上のための取り組み結果に関する精査結果及び原子炉設置変更許可申請書の補正に対する指摘について
- ・ 7月 13日 原子力規制委員会 第486回審査会合
発電用原子炉設置変更許可申請書の補正に対する主要な指摘事項への対応等について

以 上

<参考>

当社原子力発電所の公表基準（平成15年11月策定）における不適合事象の公表区分について

区分Ⅰ 法律に基づく報告事象等の重要な事象

区分Ⅱ 運転保守管理上重要な事象

区分Ⅲ 運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点からすみやかに詳細を公表する事象

その他 上記以外の不適合事象

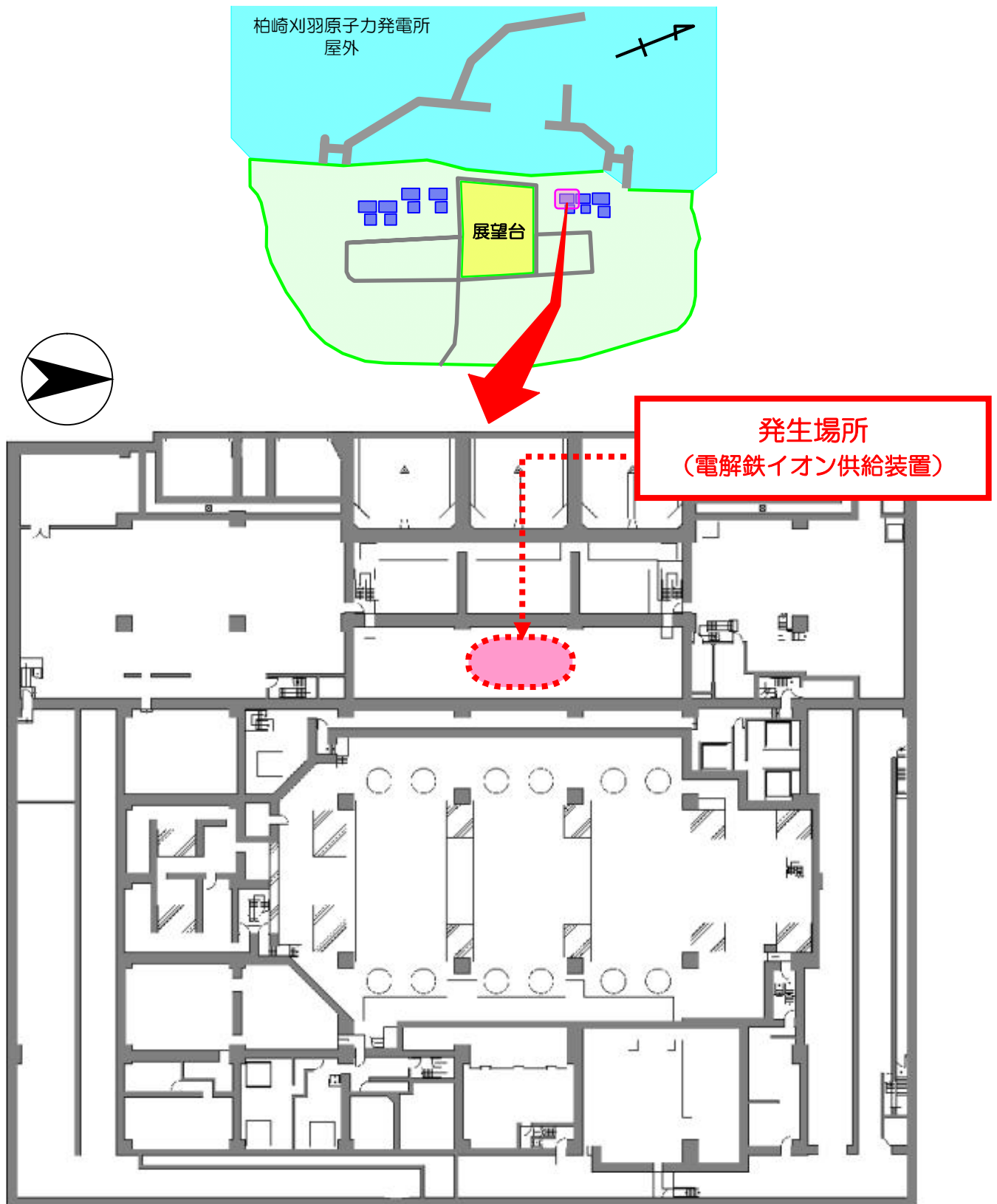
区分：Ⅲ

号機	—	
件名	第二企業センターの倉庫内（非管理区域）における病人の発生について	
不適合の概要	<p>2017年7月4日、第二企業センターの倉庫内（非管理区域）において、作業準備を行っていた協力企業作業員が、体調不良により床面に倒れていたところを別の作業に従事していた協力企業作業員が発見したことから、救急車を要請し病院へ搬送しました。</p> <p>なお、作業員に意識はあり身体に放射性物質の付着はありませんでした。</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<p><安全上の重要度></p> <p>安全上重要な機器等 / <u>その他</u></p>	<p><損傷の程度></p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
対応状況	<p>病院における診察の結果、「熱中症」と診断されました。</p> <p>熱中症対策としてこまめな休憩や水分補給を行っていましたが、今後とも当社社員および協力企業の方々へ作業開始前の体調確認や、休憩、適度な水分および塩分等のミネラル補給を心がけるよう、あらためて注意喚起を行います。</p>	

区分：Ⅲ

号機	7号機 タービン建屋（非管理区域）	
件名	電解鉄イオン供給装置からの海水の漏えいについて	
不適合の概要	<p>2017年7月5日午前10時頃、7号機タービン建屋地下2階（非管理区域）において、電解鉄イオン供給装置*点検後の試運転にて漏えい確認を実施していたところ、同装置の配管接続部（フランジ部）から海水（約250リットル）が周辺の床に漏えいしました。</p> <p>その後、同装置の運転を停止したことにより、漏えいは停止しました。</p> <p>本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>* 電解鉄イオン供給装置 熱交換器（原子炉建屋補機冷却系およびタービン建屋補機冷却系）の海水側配管内面に耐食性に優れた酸化鉄系防食（サビ防止）被膜を形成する装置。</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<p><安全上の重要度></p> <p>安全上重要な機器等 / <u>その他</u></p>	<p><損傷の程度></p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
対応状況	<p>漏えいした海水については、排水処理を実施しました。</p> <p>詳細な原因については現在調査中です。</p>	

7号機タービン建屋（非管理区域）電解鉄イオン供給装置からの
海水の漏えいについて



柏崎刈羽原子力発電所7号機 タービン建屋 地下2階（非管理区域）

7号機タービン建屋(非管理区域) 電解鉄イオン供給装置からの海水の漏えいについて



漏えい箇所(配管接続部)

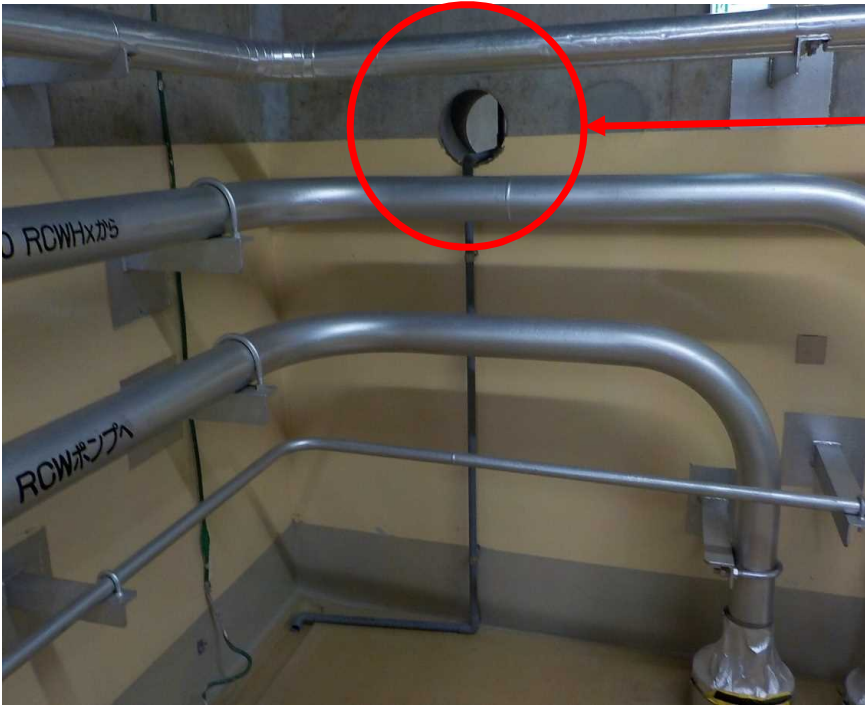


電解鉄イオン供給装置の周辺の海水漏えい状況

区分：Ⅲ

号機	2号機 原子炉建屋（管理区域）	
件名	防火壁貫通部の防火処置未実施について	
不適合の概要	<p>2017年7月11日、2号機原子炉建屋地下1階および地下5階（管理区域）の階段室において、防火区画として設定している壁の貫通部に対して、防火処置が施されていない箇所が計2箇所あることを確認しました。</p> <p>このため状況調査を行った結果、当該貫通部の状態は、建築基準法に抵触すると判断しました。</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<安全上の重要度> 安全上重要な機器等 / <u>その他</u>	<損傷の程度> <input type="checkbox"/> 法令報告要 <input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要 <input type="checkbox"/> 調査・検討中
対応状況	当該貫通部については、モルタル詰めによる防火処置を速やかに実施いたします。また、同様な貫通部が発見された場合は、適切に処置を実施してまいります。	

2号機原子炉建屋(管理区域)防火壁貫通部の防火処置未実施について



当該貫通部



地下1階北東廊下側

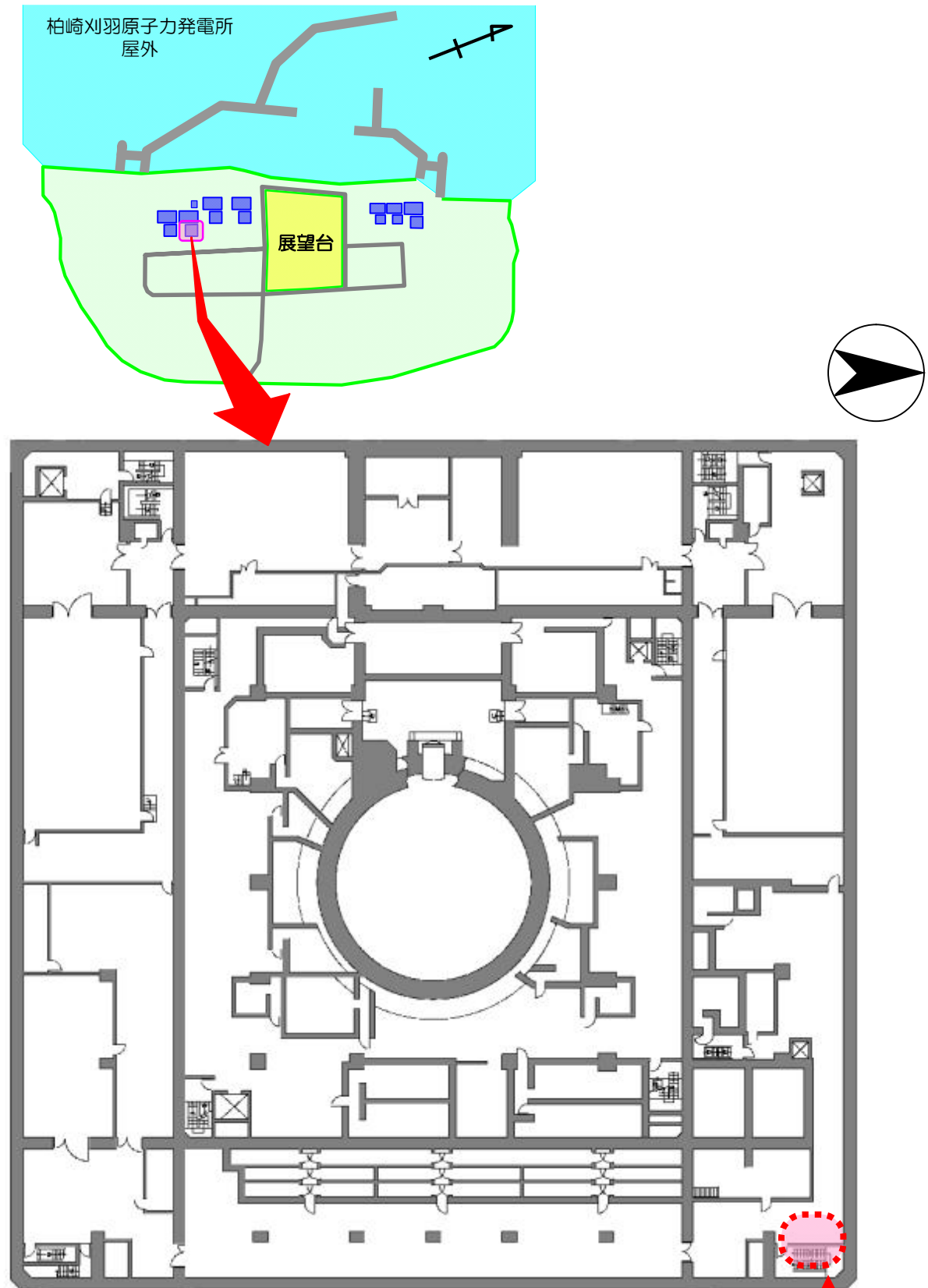


当該貫通部



地下5階北東廊下側

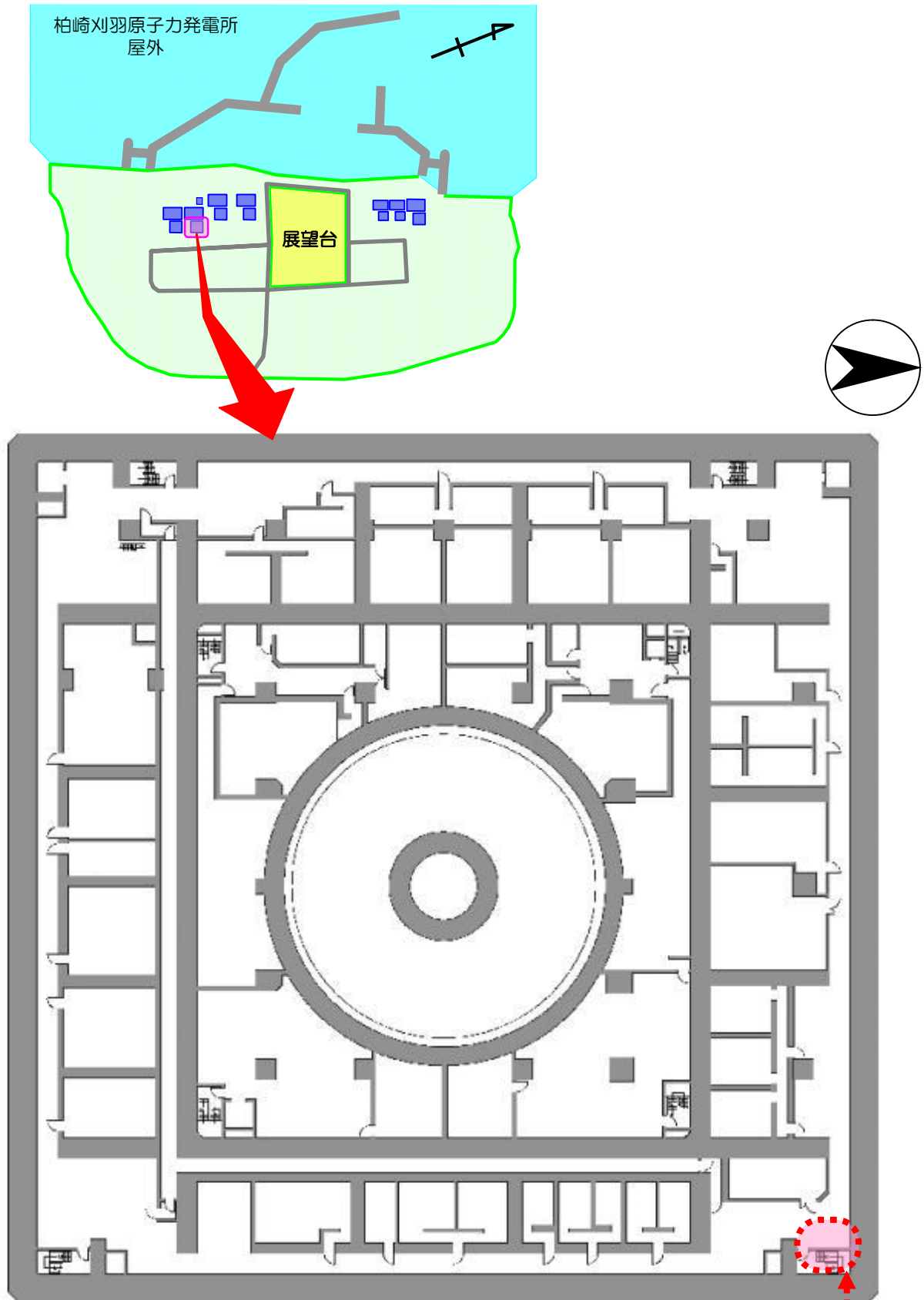
2号機 防火壁貫通部の防火処置未実施について



柏崎刈羽原子力発電所2号機 原子炉建屋 地下1階

発生場所
(北東側階段室および廊下)

2号機 防火壁貫通部の防火処置未実施について



柏崎刈羽原子力発電所2号機 原子炉建屋 地下5階

発生場所
(北東側階段室および廊下)

区分：Ⅲ

<p>号機</p>	<p>—</p>	
<p>件名</p>	<p>発電所構内（屋外）のボーリング作業におけるけが人の発生について</p>	
<p>不適合の概要</p>	<p>2017年7月12日午後5時頃、大湊側高台（屋外）において地質調査ボーリング作業に従事していた協力企業作業員が、ボーリングロッドの吊り上げ治具と固定治具に左手中指を挟まれ負傷したため業務車両にて病院へ搬送しました。</p>  <p>けがの状況の様子（イメージ図）</p>	
<p>安全上の重要度／損傷の程度</p>	<p><安全上の重要度></p> <p>安全上重要な機器等 / <u>その他</u></p>	<p><損傷の程度></p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
<p>対応状況</p>	<p>診察の結果、左手中指の裂傷、爪のはく離および腱切断が確認されたため、応急処置として10針の縫合処置を実施した後、一時帰宅をしました。今後、あらためて病院にて診察を受ける予定です。</p> <p>今回の事例を踏まえ、ボーリング作業に従事する関係者に事例および装置の取り扱いについて周知し注意喚起を図るとともに、再発防止に努めてまいります。</p>	

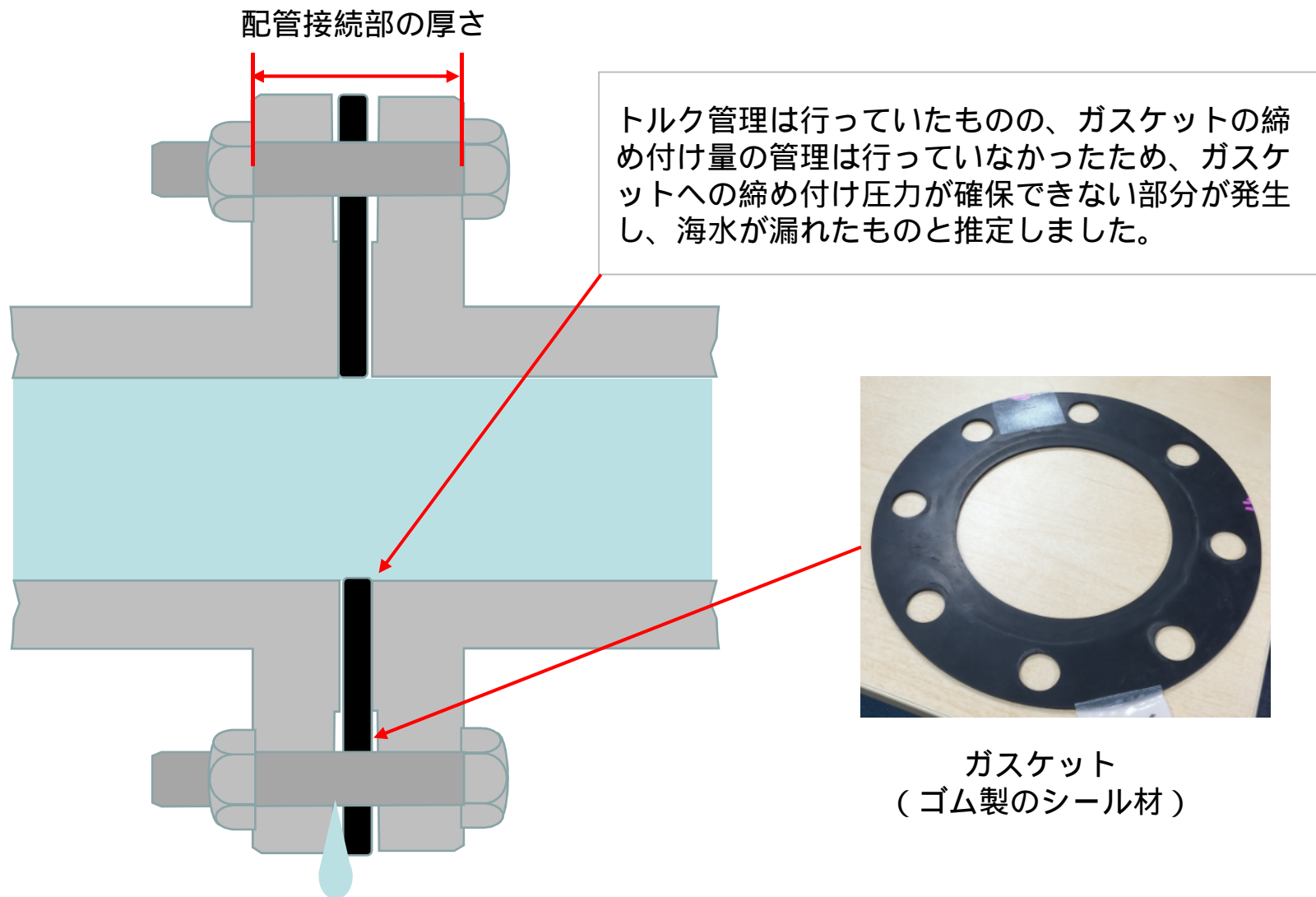
区分：Ⅲ

号機	—	
件名	発電所構内（屋外）の車両検査場におけるけが人の発生について	
不適合の概要	<p>2017年7月21日午前9時25分頃、車両検査場（屋外）において入構車両の検査作業に従事していた協力企業作業員が、検査対象車両のドアを閉める際に左手薬指を挟み負傷しました。</p> <p>当該作業員については、業務車両にて病院へ搬送しました。</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<p><安全上の重要度></p> <p>安全上重要な機器等 / <u>その他</u></p>	<p><損傷の程度></p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
対応状況	<p>診察の結果、左手薬指の開放骨折と診断されました。</p> <p>今回の事例を踏まえ、作業に従事する関係者に事例周知し注意喚起を図るとともに、再発防止に努めてまいります。</p>	

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号 機	件 名	内 容
	2017年 7月5日	-	第二企業センターの倉庫内（非管理区域）における病人の発生について(区分)	-
	2017年 7月5日	7号機	7号機 タービン建屋（非管理区域）電解鉄イオン供給装置からの海水の漏えいについて（区分）	<p>【発生状況】 2017年7月5日午前10時頃、7号機タービン建屋地下2階（非管理区域）において、電解鉄イオン供給装置点検後の試運転にて漏えい確認を実施していたところ、同装置の配管接続部（フランジ部）から海水（約250リットル）が周辺の床に漏えいしました。</p> <p>その後、同装置の運転を停止したことにより、漏えいは停止しました。</p> <p>本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>【対応状況】 漏えいした海水については、排水処理を実施しました。 （2017年7月5日 お知らせ済み）</p> <p>原因 ・調査の結果、ガスケットの締め付け量が不足していたことを確認しました。 <u>これまでの手順では、配管接続部のボルトを規定トルクにて締め付けを行い、締め付け後の配管接続部の厚さが均一になっていることを確認することとしていましたが、ガスケットの締め付け量の管理を行っていなかったため、ガスケットへの締め付け圧力が確保できない部分が発生し、十分なシール機能を得ることができませんでした。そのため、電解鉄イオン供給装置を運転したところ配管内圧が上昇し、シール機能が不十分な部分から漏えいが発生したものと推定しています。</u></p> <p>ガスケット：配管接続部の気密性を向上させるために使用するゴム製のシール材（厚さ約3mm）</p> <p>対策 ・配管接続部の締め付け時は、配管接続面にガスケットが接触する位置まで締め付け、配管接続部の厚さを測定した後、必要なガスケットへの締め付け圧力が確保出来る位置まで更に締め付けを行い、再度配管接続部の厚さを測定し、ガスケット厚さが約1mm潰れていることを確認する手順に変更することとしました。 また、同装置については、上記手順に従い改めて配管接続の施工を行った後、2017年7月10日に装置の試運転を実施し、配管接続部からの海水漏えいがないことを確認しております。</p>
	2017年 7月12日	2号機	2号機 原子炉建屋（管理区域）防火壁貫通部の防火処置未実施について(区分)	<p>【発生状況】 2017年7月11日、2号機原子炉建屋地下1階および地下5階（管理区域）の階段室において、防火区画として設定している壁の貫通部に対して、防火処置が施されていない箇所が計2箇所あることを確認しました。</p> <p>このため状況調査を行った結果、当該貫通部の状態は、建築基準法に抵触すると判断しました。</p> <p>【対応状況】 当該貫通部については、モルタル詰めによる防火処置を速やかに実施いたします。また、同様な貫通部が発見された場合は、適切に処置を実施してまいります。</p>

7号機 タービン建屋（非管理区域）電解鉄イオン供給装置からの海水の漏えいについて
配管接続部の断面図



(お知らせメモ)

柏崎刈羽原子力発電所における防火壁貫通部に係る点検計画について

2017年7月21日
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

2号機において、防火区画として設定している壁の貫通部に対して、防火処置が施されていない箇所が計2箇所あることを確認しました。

(2017年7月12日お知らせ済み)

上記については、2017年7月19日にモルタルにて補修を行い、防火処置を完了しました。

今後、他号機を含めて10月末までを目途に防火区画における防火処置未実施箇所の有無を点検することとし、点検の結果については別途取りまとめてお知らせいたします。点検において是正が必要な箇所を確認した場合は、適切に防火処置を行ってまいります。

以 上

柏崎刈羽原子力発電所における 安全対策の取り組み状況について

2017年 7月27日

東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所



柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年7月26日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
I. 耐震・対津波機能（強化される主な事項のみ記載）		
1. 基準津波により安全性が損なわれないこと		
(1) 基準津波の評価	完了	
(2) 防潮堤の設置	完了	
(3) 原子炉建屋の水密扉化	完了	完了
(4) 津波監視カメラの設置	完了	
(5) 貯留堰の設置	完了	完了
(6) 重要機器室における常設排水ポンプの設置	完了	完了
2. 津波防護施設等は高い耐震性を有すること		
(1) 津波防護施設(防潮堤)等の耐震性確保	完了	完了
3. 基準地震動策定のため地下構造を三次元的に把握すること		
(1) 地震の揺れに関する3次元シミュレーションによる地下構造確認	完了	完了
4. 安全上重要な建物等は活断層の露頭がない地盤に設置		
(1) 敷地内断層の約20万年前以降の活動状況調査	完了	完了
II. 重大事故を起こさないために設計で担保すべき機能(設計基準) (強化される主な事項のみ記載)		
1. 火山、竜巻、外部火災等の自然現象により安全性が損なわれないこと		
(1) 各種自然現象に対する安全上重要な施設の機能の健全性評価	完了	完了
(2) 防火帯の設置	工事中	
2. 内部溢水により安全性が損なわれないこと		
(1) 溢水防止対策(水密扉化、壁貫通部の止水処置等)	工事中	工事中

□:検討中、設計中 □:工事中 □:完了

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年7月26日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
3. 内部火災により安全性が損なわれないこと		
(1) 耐火障壁の設置等	工事中	工事中
4. 安全上重要な機能の信頼性確保		
(1) 重要な系統(非常用炉心冷却系等)は、配管も含めて系統単位で多重化もしくは多様化	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
5. 電気系統の信頼性確保		
(1) 発電所外部の電源系統多重化(3ルート5回線)	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(2) 非常用ディーゼル発電機(D/G)燃料タンクの耐震性の確認	完了	完了
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
1. 原子炉停止		
(1) 代替制御棒挿入機能	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(2) 代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(3) ほう酸水注入系の設置	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
2. 原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧		
(1) 自動減圧機能の追加	完了	完了
(2) 予備ポンプ・バッテリーの配備	完了	完了
3. 原子炉注水		
3.1 原子炉高圧時の原子炉注水		
(1) 高圧代替注水系の設置	工事中	工事中
3.2 原子炉低圧時の原子炉注水		
(1) 復水補給水系による代替原子炉注水手段の整備	完了	完了
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置による原子炉注水手段の整備	完了	完了
(3) 消防車の高台配備	完了	

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

2 / 5

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年7月26日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
4. 重大事故防止対策のための最終ヒートシンク確保		
(1) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了
(2) 耐圧強化ベントによる大気への除熱手段を整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
5. 格納容器内雰囲気冷却・減圧・放射性物質低減		
(1) 復水補給水系による格納容器スプレイ手段の整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
6. 格納容器の過圧破損防止		
(1) フィルタベント設備(地上式)の設置	性能試験終了 ^{※2}	性能試験終了 ^{※2}
(2) 代替循環冷却系の設置	工事中	工事中
7. 格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却(ペDESTAL注水)		
(1) 復水補給水系によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	完了	完了
(3) コリウムシールドの設置	完了	完了
8. 格納容器内の水素爆発防止		
(1) 原子炉格納容器への窒素封入(不活性化)	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
9. 原子炉建屋等の水素爆発防止		
(1) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	完了
(2) 原子炉建屋水素検知器の設置	完了	完了
10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保		
(1) 使用済燃料プールに対する外部における接続口およびスプレイ設備の設置	完了	完了

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

※2 周辺工事は継続実施

3 / 5

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年7月26日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
11. 水源の確保		
(1) 貯水池の設置	完了	完了
(2) 重大事故時の海水利用(注水等)手段の整備	完了	完了
12. 電気供給		
(1) 空冷式ガスタービン車・電源車の配備(7号機脇側)	工事中	
(2) 緊急用電源盤の設置	完了	
(3) 緊急用電源盤から原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了
(4) 代替直流電源(バッテリー等)の配備	工事中	完了
13. 中央制御室の環境改善		
(1) シビアアクシデント時の運転員被ばく線量低減対策(中央制御室ギャラリー室内の遮へい等)	工事中	
14. 緊急時対策所		
(1) 5号機における緊急時対策所の整備	工事中	
15. モニタリング		
(1) 常設モニタリングポスト専用電源の設置	完了	
(2) モニタリングカーの配備	完了	
16. 通信連絡		
(1) 通信設備の増強(衛星電話の設置等)	完了	
17. 敷地外への放射性物質の拡散抑制		
(1) 原子炉建屋外部からの注水設備(大容量放水設備等)の配備	完了	

4 / 5

柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の実施状況

2017年7月26日現在

項目	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機
I. 防潮堤(堤防)の設置	完了 ^{※4}				完了		
II. 建屋等への浸水防止							
(1) 防潮壁の設置(防潮板含む)	完了	完了	完了	完了	海拔15m以下に開口部なし		
(2) 原子炉建屋等の水密扉化	完了	検討中	工事中	検討中	完了	完了	完了
(3) 熱交換器建屋の浸水防止対策	完了	完了	完了	完了	完了	-	
(4) 開閉所防潮壁の設置 ^{※3}	完了						
(5) 浸水防止対策の信頼性向上(内部溢水対策等)	工事中	検討中	工事中	検討中	工事中	工事中	工事中
III. 除熱・冷却機能の更なる強化等							
(1) 水源の設置	完了						
(2) 貯留堰の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(3) 空冷式ガスタービン発電機車等の追加配備	完了					工事中	工事中
(4) -1 緊急用の高圧配電盤の設置	完了						
(4) -2 原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(5) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(6) 高圧代替注水系の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	工事中	工事中
(7) フィルタベント設備(地上式)の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	性能試験終了 ^{※2}	性能試験終了 ^{※2}
(8) 原子炉建屋トップベント設備の設置 ^{※3}	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(9) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(10) 格納容器頂部水張り設備の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(11) 環境モニタリング設備等の増強・モニタリングカーの増設	完了						
(12) 高台への緊急時用資機材倉庫の設置 ^{※3}	完了						
(13) 大濃度純水タンクの耐震強化 ^{※3}	-				完了		
(14) 大容量放水設備等の配備	完了						
(15) アクセス道路の多重化・道路の補強	完了				工事中		
(16) 免震重要棟の環境改善	工事中						
(17) 送電鉄塔基礎の補強 ^{※3} ・開閉所設備等の耐震強化工事 ^{※3}	完了						
(18) 津波監視カメラの設置	工事中				完了		
(19) コリウムシールドの設置	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	完了	完了

※2 周辺工事は継続実施

※3 当社において自主的な取り組みとして実施している対策

※4 追加の対応について検討中

今後も、より一層の信頼性向上のための安全対策を実施してまいります。

5 / 5

<参考> 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における主な自主的取り組みの対応状況

2017年7月26日現在

	対応状況	
	6号機	7号機
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
6. 格納容器の過圧破損防止		
(1) フィルタベント設備(地下式)の設置	工事中	工事中
9. 原子炉建屋等の水素爆発防止		
(2) 格納容器頂部水張り設備の設置	完了	完了
(4) 原子炉建屋トップベント設備の設置	完了	完了
10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保		
(1) 復水補給水系による代替使用済燃料プール注水手段の整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
11. 水源の確保		
(2) 大湊側純水タンクの耐震強化	完了	
12. 電気供給		
(1) 空冷式ガスタービン車・電源車の配備(荒浜側高台)	完了	
(2) 緊急用電源盤の設置	完了	
(3) 緊急用電源盤から原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了
14. 緊急時対策所		
(1) 免震重要棟の設置	完了	
(2) シビアアクシデント時の所員被ばく線量低減対策(免震重要棟内の遮へい等)	工事中	

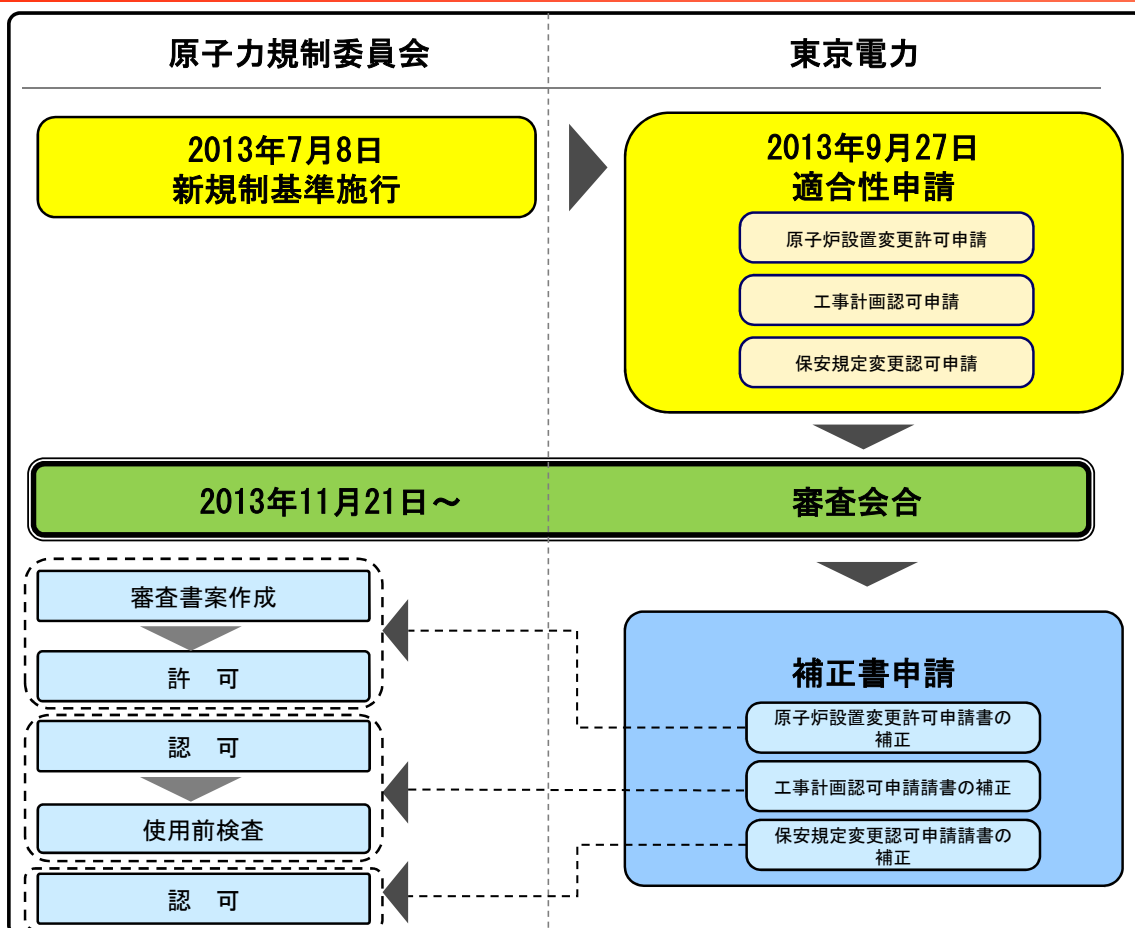
※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の新規制基準への適合性審査の状況について

2017年7月27日
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所



審査の流れについて



2017年7月26日現在

主要な審査項目		審査状況
地質・地盤	敷地周辺の断層の活動性	済
	敷地内の断層の活動性	済
	地盤・斜面の安定性	済
地震動	地震動	済
津波	津波	済
火山	対象火山の抽出	済

2

- 当社に関わる審査会合は、2017年7月26日までに32回行われています。
- 原子力規制委員会による追加地質調査に関わる現地調査が行われています。
 - ・ 1回目：2014年 2月17日、18日
 - ・ 2回目：2014年 10月30日、31日
 - ・ 3回目：2015年 3月17日
- 2017年6月16日に原子炉設置変更許可申請に係る補正書を提出いたしました。

主要な審査項目		審査状況
設計基準 対象施設	外部火災（影響評価・対策）	済
	火山（対策）	済
	竜巻（影響評価・対策）	済
	内部溢水対策	済
	火災防護対策	済
	耐震設計	済
	耐津波設計	済
重大事故 等対処施設	確率論的リスク評価（シーケンス選定含）	済
	有効性評価	済
	解析コード	済
	制御室（緊急時対策所含）	済
	フィルタベント	済

プラントの審査状況

- 当社に関わる審査会合は、2017年7月26日までに117回行われています。
- 原子力規制委員会によるプラントに関わる現地調査が行われています。
 - ・ 1回目：2014年 12月12日
 - ・ 2回目：2016年 7月22日
 - ・ 3回目：2017年 2月16日
- 2017年6月16日に原子炉設置変更許可申請に係る補正書を提出いたしました。
- 至近の状況として2017年7月13日に発電用原子炉設置変更許可申請の補正書に対する主要な指摘事項への対応について審査会合を行っております。

2017年度第1四半期決算について

2017年7月28日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、本日、2017年度第1四半期（2017年4月1日～6月30日）の連結業績についてとりまとめました。

収入面では、販売電力量が前年同期比 3.6%減の 543 億 kWh となったことなどから、電気料収入は同 2.7%減の 1 兆 352 億円となりました。

これに地帯間販売電力料や他社販売電力料などを加えた売上高は、前年同期比 3.8%増の 1 兆 3,133 億円、経常収益は同 2.9%増の 1 兆 3,258 億円となりました。

支出面では、原子力発電が全機停止するなか、割高な燃料の消費を抑制するなど全社を挙げてコスト削減に努めたものの、燃料価格の上昇による燃料費の増加や購入電力料の増加などにより、経常費用は前年同期比 10.3%増の 1 兆 2,702 億円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比 59.3%減の 556 億円となりました。

また、特別利益は原子力損害賠償・廃炉等支援機構からの資金交付金 1,286 億円を計上した一方、特別損失に原子力損害賠償費 360 億円を計上したことなどから、親会社株主に帰属する四半期純利益は 1,480 億円となりました。

(単位：億円)

	当第1四半期 (A)	前年同期 (B)	比較	
			A-B	A/B (%)
売上高	13,133	12,649	483	103.8%
営業損益	676	1,436	△ 759	47.1%
経常損益	556	1,367	△ 811	40.7%
親会社株主に帰属する 四半期純損益	1,480	11	1,469	—

【2017年度業績予想】（2017年5月11日に公表した内容から変更はありません）

2017年度の業績については、電気料収入が燃料費調整制度の影響により増加することなどから、売上高は前年度比3,920億円増の5兆7,500億円程度になるものと見込んでおります。

経常利益は、売上高の増収があるものの、燃料費や購入電力料の増加などにより、前年度比280億円減の2,000億円程度になるものと見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構からの資金交付金の計上などにより前年度比1,550億円増の2,880億円程度になるものと見込んでおります。

（単位：億円）

	2017年度 (今回見通し)	2017年度 (2017年5月11日 公表見通し)	2016年度 (実績)
売上高	57,500	57,500	53,577
経常損益	2,000	2,000	2,276
特別損益	980	980	△ 806
親会社株主に帰属する 当期純損益	2,880	2,880	1,328

以上